

「新日本製鉄・住友金属工業の統合基本契約締結について」

アナリスト説明会における主な質疑応答

開催日時 2011 年9月22日

説明者 新日本製鉄(株) 代表取締役社長 宗岡正二

住友金属工業(株) 代表取締役社長 友野 宏

	質問	回答
1	新会社の目標利益水準は？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後詰めていきますが、目標としては債券の国際格付けでA格相当の維持が可能なレベル、ROS10%以上は確保できる会社になりたいと考えています。</li> </ul>
2	グループ再編とグローバル展開のスケジュールは？日本と海外の製造拠点の分担は？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ会社の統合再編も、できるところから本体と同様のスケジュール感で進めていきます。</li> <li>・現在の両社合計約5,000万トンから新会社グローバル生産規模6,000-7,000万トンへの増分は海外が中心です。日本は、商品開発や技術開発の拠点としてグローバル展開のベースです。</li> </ul>
3	現在、生産規模・稼働率が高く、設備の集約によるコストダウンは難しい。グローバル展開関連で300億円、技術・研究開発関連で400億円の統合効果を具体的にどう出すのか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル展開関連については、例えば国内の管理間接部門やエンジニアを効率化して、海外で活躍してもらうことによる統合効果がでると考えています。また、海外事業に対して日本からのスラブやホットコイルの供給力を高めることで、コスト削減を進められます。</li> <li>・技術・研究開発関連では、ベストプラクティスを持ち寄って全体をトップランナー水準に引き上げることで、技術諸元やコストの成果を出していきます。例えば高炉で使うコークス比などは、知恵を結集することによって大きな改善が見込まれます。</li> </ul>
4	このタイミングでの発表となった理由は何か？まだ公正取引委員会の二次審査に入る前ではないのか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統合検討委員会で検討を進め具体的に決まった項目は発表した上で、今後の検討を一層加速させたいとの考えです。</li> <li>・公正取引委員会の二次審査は始まっています。現在は、公正取引委員会の質問にお答えしているところであり、このプロセスが終了した後、90日以内に結論を頂くこととなります。</li> </ul>
5	ROS10%以上の収益目標は、円高等、現在の厳しい状況でも達成できると考えているか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・債券の国際格付けでA格相当のROSレベルを目指すことが必要と考えています。事業環境の変化は常にあることですが、大切なことは軸をぶらさないことです。</li> <li>・今回の統合により、規模以外の主要な経営指標では全て世界トップになる意気込みで取り組んでいきます。</li> </ul>

6	グローバル生産規模6,000-7,000万トンは何年後を想定しているか？国内拠点を整理する計画はあるか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10年以内には達成したいと考えていますが、鉄の世界需要の成長を考え、スピードアップを図ります。海外展開には資金、人材、時間がかかりますが、経営統合により、単独でやるよりも、より早く広範囲に、効率的に実現できると考えています。</li> <li>・国内拠点については、高炉を止めるとか、製鉄所を閉めるといったことは現在考えていません。</li> </ul>
7	システム統合等で課題はあるか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新会社発足時に統合・融合がmustな項目、望ましい項目(want)、時期が先でも構わない項目の3つに分けて検討しています。mustの達成は目途を得ており、あとはwantをどこまでできるかの検討です。達成できないという項目はありません。</li> </ul>
8	両社は配当政策に違いがあるが、新会社の方針は？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両社でこれから相談します。配当方針を決めるにあたっては、株主のご期待、持続的成長に必要な投資規模、財務構造の改善の3つが大きな要素だと考えています。ROS10%以上を確保し、しっかりキャッシュを生み出すことが何より大事です。</li> </ul>
9	住金が、新日鐵との統合前に小倉、直江津と合併する背景は？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小倉と直江津は、2000年当時住金が品種別管理をはじめめるために分社したものです。この分社化は、その歴史的役割を果たしました。今回合併して、小倉は棒鋼・線材、直江津はステンレス・チタンの分野で新日鐵とのシナジー効果を出していくのが効率的と判断しました。</li> </ul>
10	グローバル展開の考え方は？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高い技術力を活かした事業展開を図ります。その際、海外合併会社に技術を注入する必要がある場合は、50%の出資が一つの判断基準です。いずれにしても、個々の案件においては、目的や条件、状況に応じた判断を行っていきます。</li> </ul>

以上